



左から網田漁協の中嶋大記海苔部会長、生活委員長の宮本悠生さん、小夏隆雄校長

2/6 網田、住吉漁協が乾海苔贈る/
市学校給食センターへ

網田、住吉の両漁協が市学校給食センターに市特産品の「乾海苔」を贈呈。両漁協が各3箱で計21,600枚。学校を代表して網田中学校で贈呈式がありました。小夏隆雄校長が謝辞を述べると、両漁協を代表して網田漁協の中嶋大記海苔部会長は「日本一の海苔を食べて、勉強にスポーツに頑張ってください」とあいさつ。生徒代表で生活委員長の宮本悠生さん(2年)も「私たちのためにありがとうございます。生徒全員でおいしくいただきます」とお礼を述べました。



どっちが本物か？化石クイズも大盛り上がり

2/3 花園小学校で化石のレプリカ作製/
卒業記念に

花園小6年の32人が卒業を前に化石のレプリカを作りました。熊本地学会前会長の鶴田孝三さん(70)の指導で、児童たちは水と石こうを混ぜてアンモナイトの型枠に流して固まるのを待ちました。また、石を削り、ブラッシングをして化石を見つけ出すクリーニングも体験。児童たちは鶴田さんに「化石によって恐竜が生活した時代や環境が分かることを教えてもらい、楽しくて貴重な体験でした」とお礼を述べ、古代のロマンに夢を馳せていました。6年生の他の2クラスも同様の授業を行いました。この活動は花園地区青少年健全育成協議会の支援を受け実施されました。



児童代表に元松市長から感謝状が贈られました

1/19 「人権の花」運動終了式/
生命の尊さ、思いやりの心育む

2025年度の「人権の花」運動終了式が宇土小学校の体育館でありました。この運動は全国の法務局などが地方公共団体と連携して実施。花の種まきなど栽培を通して生命の尊さ、思いやりの心を育んでもらうのが目的です。5年生がハウセンカ、マリーゴールドなどの種まき、水やり、草取りなどを欠かすことなく大切に育てました。収穫した種子は26年度実施予定の宇城市の松橋小などに渡すそうです。児童の代表は「大変でしたが、楽しかったです」と振り返っていました。



優勝した宇土地区の皆さん

1/12 第51回
宇土市地区対抗駅伝競走大会

第51回宇土市地区対抗駅伝競走大会(市教委・市体育協会主催)が市運動公園をスタートして、轟地区を周回する6区間15.9kmのコースで実施されました。市内5地区のチームが出場。順位が激しく入れ替わるなか、宇土地区が見事優勝に輝きました。

【総合成績】

- 1位 宇土チーム 52分00秒
- 2位 網津チーム 52分35秒
- 3位 花園チーム 52分42秒
- 4位 緑川チーム 57分07秒
- 5位 走湯チーム 62分29秒



第52回都市対抗熊日駅伝に出場した選手の皆さん

2/8 第52回
都市対抗熊日駅伝

第52回都市対抗熊日駅伝が天草市陸上競技場をスタート、上通アーケード前をゴールとする18区間100.5kmのコースで開催されました。選手一人一人が最後まで諦めずに想いを繋ぎました。

【監督】 渡並隆宏
【コーチ】 宮本誠也、清田大助、村田浩昭



専用の播種機を使って育苗トレーに種子を移す会員

1/21 宇土市の基幹作物
「葉たばこ」播種

城塚町の葉たばこ共同育苗施設で葉たばこの種まきがありました。宇土市たばこ振興会(宮本昇会長)の生産者33戸が朝早くから施設に集まり、コーティング種子を均等に育苗トレーに配置する播種機を使って約3,800箱に種子を移しました。播種された葉たばこは、会員が共同で栽培管理して苗まで育て、3月頃に各会員の畑に定植された後、5月中旬から7月末にかけて収穫・乾燥作業を経て出荷されます。



児童代表がやぐらに火をくべました

1/20 今年1年の健康と願いを込めて
網田小でミニどんどや

毎年、網田小学校ではPTAが中心となって大きなどんどやを実施していますが、今年は当日の強風や降雪の影響で中止に。それでも「子どもたちの楽しみを無くしたくない」と地域の有志と学校が力を合わせ、校庭でミニどんどやが開催されました。

校門に飾られていた門松や地域から持ち寄った正月飾り、みかんの枝などを集め、二つの小さなやぐらを組み上げました。児童は、書道で書いた「今年の目標」をやぐらにくべ、炎に願いを託しました。

地域おこし協力隊通信

わたしのうと活動記

地域おこし協力隊って？
都市部から移住し、地域の魅力づくりやお手伝いをする制度です。農業や観光、PRの支援など、地域の課題に取り組みながら、ここでの暮らしを楽しみ、定住を目指します。宇土市地域おこし協力隊は、今年新たに8人着任し、総勢10人で活動しています。

熊本産トマトに食材の力を実感

前回も書きましたが、移住の決め手となったのは「熊本の食の豊かさ」にありました。私は趣味で料理をしていますが、熊本に来てから、食材の力をより強く感じるようになりました。特に印象に残っているのがトマトです。



お手製のトマトパスタとトマトソース

「トマトがおいしい！」という理由で、一時期はトマトパスタをよく作っていました。皮を湯むきして、みじん切りにした野菜と炒めてソースを作り、ひき肉をワインで煮込むなど手間はかかります。しかし、その分、素材の味をしっかりと楽しめます。トマトソースがあれば、リゾット等にも応用できます。みなさんもぜひ試してみてください。

初の干し柿作り 年長者の知恵が凝縮



初の干し柿作りに挑戦しました。地域のみなさんに作り方を聞いてはいましたが、聞くとやるとでは大違い。「適当にやっても失敗しないよ」とも聞いていたのですが……。素人には分からないことだらけ。不安の中、時間をかけて何とか形にすることができ、「適当」の中に年長者の知恵が詰まっているのを実感しました。結果は写真の通り。及第点かと思えます。来年はみそ作りにも挑戦してみたいと思います。



農林政策課 農林振興係
福元 浩平
協力隊mission
耕作放棄地の活用、宇土の特産品の発掘や開発。

地域の資産に新たな価値を

「空き家活用担当」として、日々奮闘しています。私のミッションは、眠っている地域の資産を掘り起こし、新たな価値を吹き込むことです。理想の物件を探し求めて地域内を奔走する傍ら、自らのスキルアップのためにDIYワークショップにも積極的に参加しています。ワークショップで床の張り替えや壁の漆喰(しっくい)塗りなどの技術を学びながら汗を流しています。こうした活動を通じて、単なる知識だけでなく「自分の手で空間を再生させる」という手応えを実感しています。また、作業中の何気ない会話から、地域の歴史をうかがえることも大きな収穫です。

空き家と地域をつなぐ懸け橋、に

「古いものに新しい命を吹き込み、人が集まる場所に変える」。そんな未来を目指し、工具を手に、空き家と地域をつなぐ懸け橋、になれるよう励んでいます。そんな場所ができる未来と一緒に目指したいので、表に出てこない空き家情報などご一報いただけましたら幸いです。

まちづくり推進課 定住移住推進係
原 直樹

協力隊mission
地域のみなさまと交流し、「楽しい空き家活用」を実践する。



教室から窓の外の景色を撮影する児童と指導する見沢隊員

2/10 地域おこし協力隊が写真教室/ 思い込めてシャッターを

市地域おこし協力隊の見沢晴菜隊員が網田小3年の11人を対象に写真教室を開きました。最初に「写真ってなんだろう～誰でも魔法使いになれる!～」の演題で講義。「皆さんが残したい、写したいと思う場所や物を主人公にシャッターを切ってみてください」とアドバイス。児童たちは早速タブレットを手に校舎や音楽室、廊下などを思い思いに撮りました。教室に戻ると、それぞれ自慢の1枚を紹介しながら、写した理由を説明。撮った写真は今後、観光ポストカードにして、JR網田駅を皮切りに順次公共の施設などに設置する予定です。



全国大会に出場する宇土修武館の皆さん

2/9 空手道全国大会出場を市長に報告/ 5選手、健闘誓う

県予選優勝などの好成績で全国大会に出場する宇土修武館の小中学生5人が市役所を訪ね、元松市長に健闘を誓いました。小学生はいずれも6年で内田航大(豊野小)、鹿川結翔(花園小)、永井壘(宇土小)の3選手。第5回全日本少年少女空手道選抜大会(2月27日～3月1日、横浜市)で、九州代表として団体形に出場。中学生は荒川叶音(鶴城中1年)、野添太陽(同2年)の2選手。未来くん杯第20回全国中学生空手道選抜大会(3月27～29日、京都府亀岡市)で、県代表として個人形に挑みます。

熊日緑のリボン賞受賞報告



「花園クリエイティブクラブ」の皆さん

熊本日日新聞社が主催する「第130回熊日緑のリボン賞」に選ばれた「花園クリエイティブクラブ」(上村友男代表)と「宇土不知火諾右衛門保存会」(佃修会長)が市役所を訪ね、受賞報告をしました。同賞は県内で社会奉仕や環境美化に取り組む団体・個人を表彰するもので、原則として10年以上の実績が必要とされます。

「花園クリエイティブクラブ」は花園小の同窓生らで構成。立岡自然公園の花ショウブ園の草取り、植樹などの地道な整備作業が認められました。クラブは会員の高齢化に伴い2025年5月末で活



「宇土不知火諾右衛門保存会」の皆さん

動を終了。メンバーは「会の名称は残し、必要があればその都度集まって活動したい」とさらなる意欲を見せていました。

「宇土不知火諾右衛門保存会」は市が生んだ名横綱、不知火諾右衛門(1801～54)の功績を次代に伝えようと不知火諾右衛門の墓一帯(栗崎町)の保全に努めてきました。かつて墓周辺は雑草木に覆われていましたが、ツツジ、桜の植樹や清掃・美化に取り組んださまざまな活動が評価されました。会員は「とにかくやろう!」と思い立ち、今まで続けてきました」と話していました。